

患者さんへの説明文書（ホームページ記載）

平成25年4月1日から平成28年3月31日の間に、急性上気道炎で血清Q熱PCRを測定された患者さんへ。

課題名：急性上気道炎におけるQ熱の関与

背景：

急性上気道炎（かぜ）は、ウイルスが原因であるとの定説があります。

Q熱（*Coxiella burnetii* 感染）は、イヌやネコの胎盤で増殖し、分娩時に空気中に浮遊されて、ヒトに感染し、肺炎、慢性気道感染症の感染増悪、気管支喘息の発作をおこします。

しかし、Q熱が急性上気道炎の原因になっているか否かは不明です。

目的：

Q熱が、急性上気道炎の原因となっているかを明らかにする事を目的とします。

かぜにQ熱が関与していることが明らかになれば、かぜの治療も対症療法から抗菌化学療法（マクロライド）へと変わる可能性があります。

対象：

平成25年4月1日から平成28年3月31日の間に、附属川崎病院内科外来を受診した急性上気道炎患者で、血清Q熱PCRが測定された患者さんを対象とします。

急性上気道炎とは、37.5℃以上の発熱と、かぜ症状（咽頭痛、鼻汁、咳、痰）を呈する場合とします。

方法：

患者さんの、血清Q熱PCRの陽性率を検討します。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究では教員研究費のみを使用します。

また、当院では、第一三共株式会社、Meiji Seika ファルマ株式会社より、奨学寄附金の受け入れがありますが、利益相反委員会にこの内容を申告し、適正に管理されています。上記企業は本研究には関係ありません。

***本研究は呼吸器臨床においては非常に重要な研究であり、対象者については特定されることはありませんのでご心配なさらないでください。また、患者さんに身体的、経済的負担をかけることはありません。研究への参加を希望しない方や不明な点などある方は、お問い合わせください。**

【問合わせ先】

総合内科学1 教授 沖本 二郎

電話：086-225-2111（内線3873）

メールアドレス：n.okimoto@med.kawasaki-m.ac.jp